

イカナゴ漁業開始時期の 予測方法の検討

ホッケの胃の中を調べる

特別調査研究推進チーム

後志南部地区水産技術普及指導所

中央水産試験場
(資源管理部資源予測科)

● 目 的

ホッケが捕食したコウナゴ（イカナゴ稚魚）の大きさを調べて、コウナゴの漁獲開始時期を予測する。

● 調査方法

寿都町と島牧村の市場に水揚げされたホッケの体長、体重を測定した後に、胃を取り出してアルコールで固定し、後日水産試験場の実験室で胃内容物を観察した。用いたホッケは定置網で漁獲されたものとした。

● 成 果

調査に用いられたホッケの体長組成を図2に示した。体長範囲は24～32cmの範囲にあった。定置網漁獲物の中から腹部の膨れた個体を可能な限り選別して採集した。このため大きな個体に偏った傾向があった。胃内容物中に見られた動物の出現頻度組成を図3に示した。観察したホッケの32%が空胃であった。胃内容物中に最も多く見られたのはオキアミに代表される動物プランクトンであった。それ以外の魚類や底生甲殻類などはいずれも出現頻度は少なく4～8%であった。

魚類・魚卵として5%の出現頻度が見られたが、今回の調査ではコウナゴ（イカナゴ稚魚）の出現は皆無であった。

この原因について、定置網で漁獲されたホッケを用いたことによる影響が懸念された。つまり、入網してから時間が経過することで、3cm前後の小さなコウナゴは消化されてしまう可能性が考えられる。

● 展望と課題

今回の調査結果からホッケの胃内容に現れるコウナゴを調べて漁況予測に用いるのは、かなり困難であることが判明した。

17年度になって、寿都定置網で漁獲されたホッケからコウナゴが発見され、それら37個体の平均体長は44.2mmであった。ホッケに捕食される頻度はコウナゴの資源豊度や両種の分布の重なりで異なると考えられることから、資源豊度が高い年には漁況予測の可能性があるが、低い年には相当困難と考えられる。

表1 ホッケ胃内容物の組成

漁協名	寿都町漁協			島牧漁協		備考	
	漁獲日	H16.4.13	H16.4.27	H16.5.14	H16.4.5		H16.4.29
ホッケの調査尾数	20	20	20	18	6		
胃内容物別の尾数	動物プランクトン	0	5	6	8	4	オキアミ類、コペポータなど
	甲殻類	1	1	1	1	0	ヤドカリなど
	魚類	1	2	0	0	1	
	軟体類	1	1	2	2	1	タコ、イカの仲間
	不明	5	5	6	5	0	消化が進んで判別不能
空胃だった尾数	12	6	5	3	2	胃袋が空っぽの状態	

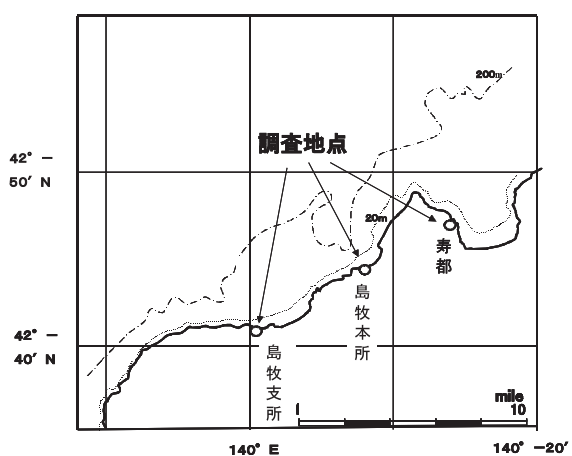


図1 調査地点

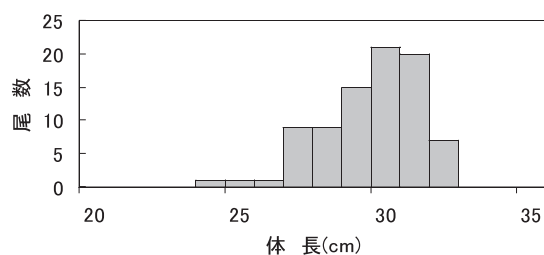


図2 実験に用いたホッケの大きさ



図3 測定中のホッケと取り出した胃

【連絡先】 後志南部地区水産技術普及指導所
 住所 岩内町字相生97
 電話 (0135)62-0087 FAX (0135)62-3549